

守ろう！僕らの新鮮な野菜



福岡教育大学附属小倉中学校 2年A組 中澤 拓海



はじめに

僕は小学校入学前から野菜作りを楽しんでいる。学校の授業の中で、「日本の食料自給率が低下している」という事を知った。実際、買い物に行ってみると、野菜も輸入されている物が多く見受けられた。「新鮮さが売りである生鮮野菜まで輸入品が...」正直、おどろいた。そこで、輸入生鮮野菜について深く知り、輸入に頼らなくてはならない理由を探りたいと思い調べてみることにした。



輸入野菜は何処から？

図2: 平成23年 野菜の国産出荷量と輸入量

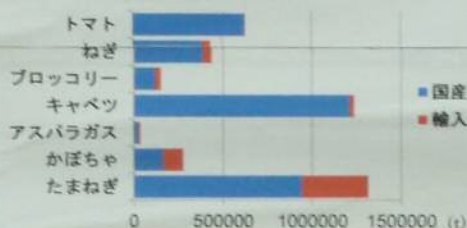


図2を見て、国産の生鮮野菜がまだ多い事に少し安心した。しかし、アスパラガスは約50%、カボチャやたまねぎ、ブロッコリー等は輸入が目立っている。その輸入野菜はどこから来たのだろうか？図3を見ると、輸入割合の多いアスパラガスはメキシコからが圧倒的に多い。かぼちゃはニュージーランドとメキシコ。ブロッコリーはアメリカ。正直、日本から近い中国を

図3: 平成23年 輸入野菜 輸入相手国割合



→ はじめとするアジアが多いと思っていた。意外にも南米からも輸入は多く、本当に驚いた。新鮮さが売りの生鮮野菜であるブロッコリーやアスパラガスが日本に届くまでどのぐらいの時間がかかるのだろうか？

ちなみに...

日本までの所要時間は？

生鮮品なので、空輸したとして考えて調べてみた。図4を見ると、空路を使ってもこれだけの時間がかかる。それに、輸入後の検疫等の時間を加え、日本国内での輸送時間も加えるとどうなるだろう...



農業従事者分析

図5: 年齢別基幹的農業従事者数の推移



図6: 平成25年 年齢別基幹的農業従事者



なぜ食糧自給率は低下したのか？ また、輸入野菜が？その理由は、農業に携わる人が減少したと考え、調べてみた。農林水産省に「基幹的農業従事者数」の資料があった。基幹的農業従事者とは、『農業就業人口(自営農業に主として従事した世帯員)のうち、ふだん仕事として主に農業に従事している者』を指す。図5より基幹的農業従事者は年々減少していることがわかる。図6では平成25年の物を抜粋したが、65歳以上の高齢者が全体の半数以上を占めているのがわかる。

まとめ

- ① 国産の生鮮野菜はまだ多いが、品目によっては輸入が多いものもある。
- ② 輸入相手国は近いアジア圏だけではない。
- ③ 基幹的農業従事者数は減少し、高齢化している。

日本は農地自体が少ない。さらに、日本の農業が高齢化していることから、このままでは生鮮野菜も輸入が多くなっていく心配がある。輸送技術が発達した結果、輸入相手国は近いアジア圏だけではなく、広がりを見せていることもわかる。このままいくと、野菜の自給率は低下する心配がある。今後、日本の農業への課題は多いと考えられる。

おわりに

今回、野菜の自給率について調べてみると、日本には多くの課題があると思った。まず、日本は土地が狭いことに加え、農業従事者が高齢化している事があげられる。この問題を解決するためには、農業の良さである「自然と共に過ごす」という事を前面にアピールし、若い人たちにも受け入れてもらおう事が大切だと思う。また、それをサポートする企業や国の政策も必要ではないかと思う。それが、日本の自給率を上げる秘訣ではないかと僕は思う。新鮮でおいしい野菜を守り続けたい。そのために自分にできることから始めたいと思う。

参考文献

1. 農林水産省 世界の食糧自給率: http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/zikyu_ritu/013.html (2014年7月29日閲覧、図1に使用)
2. ベジ探 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜情報把握システム: <http://vegetan.alic.go.jp/toukeiyouran2011.html> (2014.7.29閲覧、図2~3に使用)
3. 農林水産省統計情報: <http://www.maff.go.jp/j/tokei/index.html> (2014年7月29日閲覧、図2、図5~6に使用)
4. 成田国際空港WEBサイト: <http://www.narita-airport.jp/jp/index.html> (2014.7.30閲覧、図4に使用)
5. 地球の歩き方: <http://www.arukikata.co.jp/> (2014.7.30閲覧)

